

2025 年(令 7)5 月 13 日(火)晴れ 昨日は「⑤石碑めぐりのみち」を歩いて高崎駅前ホテルに宿泊した。
今日は、朝直接白衣観音へ行く地域のコミュニティバスがあるので、利用して白衣観音に行く事にした。

観音から少林寺達磨寺まで、高崎自然歩道のルートがあるので利用する。達磨寺からの帰路は、バスの便もあるし、JR 信越線の群馬八幡駅まで歩いて行ける距離にあるから便利だ。

天気も良さそうだから、快適なウォークが楽しめる。



観音山公園概念図



高崎駅前からコミュニティバスで、直接白衣観音の前まで運んでくれた。朝が早いからお店は開いていない



「白衣観音」 地元の実業家井上保三郎氏が、1936 年平和を祈念して建立した。
高さ 42m、6 千トンのコンクリートで造ったと云う。国の登録有形文化財



慈眼院 大師堂



折角ここまで来たから、記念に一枚



観音の横手から関東ふれあいの道(高崎自然歩道)が始まる



バスの通る県道を下って行くと、染料植物園前を通る。
開園時間が9時なので少し早すぎた。染料の原料となる植物が集められている



関東ふれあいの道は(高崎自然歩道)、途中県道から離れて山道に入る



やはり山道に入ると気持ちいいね、落ち葉のクッションが最高



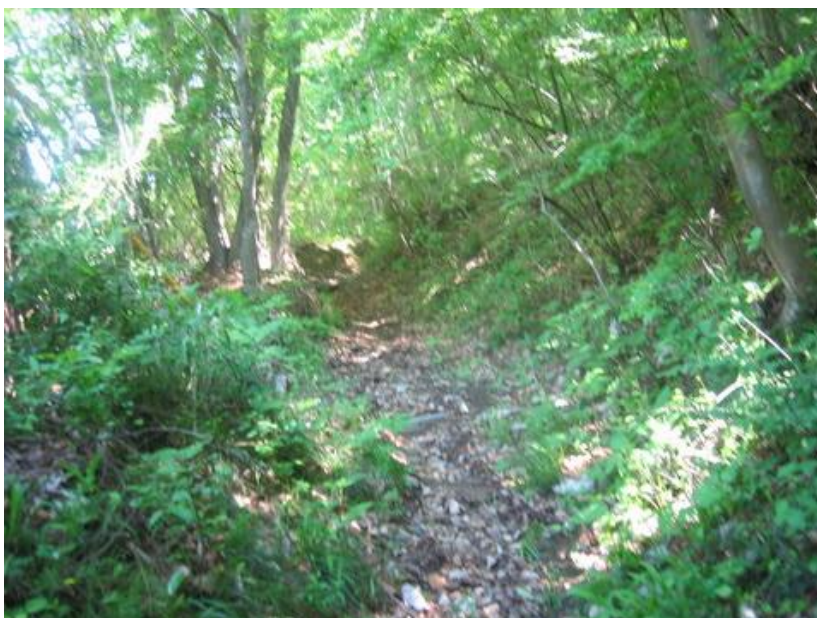
小尾根を巻きながら、里に向かって下ってゆく



観音山を下り小塚の集落を西へ、暫くは歩道のない舗装道路を歩く



今度は達磨寺に向かって、小さな尾根を北へ登ってゆく



同じような尾根道だけれど、日差しが明るい



「穴大黒」コースの途中にある。めずらしい洞穴であるが、何と元禄3年(1690)と刻まれた階の奥に大黒様が祀られてあった。お墓(やぐら)か修験者の祠か不明(文化財)



高崎自然歩道の道しるべに従って歩いているが、次第に道が悪くなってくる



道ではあるが竹藪を通るので、折れた竹が絡まって、歩きにくい



笹藪を脱すると



また県道にぶつかる、今度は花たちの出迎えに癒される



集落のお婆さん方が丹精しているのだろう



また県道を外れて、今度は畑の里道を歩いて行く



「少林寺山達磨寺」(黄檗宗)霊符堂 到着 役目を終えた達磨たちがたくさん奉納されている



室町時代行基菩薩作の「観音菩薩」をお祀りしたのが起源、
江戸時代、一了居士が達磨大師の座禅像を彫刻して祀り、広く知られるようになった



天明の飢饉(1782)で、苦しんだ農民たちの副業の一環として、張り子の達磨造りが始まった



本堂の一角には達磨の展示室があって、さまざまな達磨たちが展示されている



各県の特徴ある達磨や



骨董品や掛け軸も展示されている、歴代住職たちのコレクションだと云う



「観音堂」 開山当時からのお堂で、十一面観世音菩薩を本尊としている（文化財）



境内には自然石に掘られた「庚申」の供養石造がたくさん集められていた



境内でゆっくりお弁当を広げて、12:27 のバスで高崎駅に向かった

この項完

[参考タイム] 高崎駅(7:25)→白衣観音(7:55-8:10)→穴大黒洞穴(10:05)
→達磨寺(11:25-12:27)→高崎駅(13:20-13:27)